

1. トップジンM剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生と有効薬剤（技術）

[要約]

トップジンM剤に対するダイズ紫斑病菌の耐性菌が県内に広く分布している。代替薬剤として、ゲッター水和剤、ベルコート水和剤、スミチオンベルコート粉剤 DL の 2 回散布が有効である。

研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543
------	-------	-----	--------------

[背景・ねらい]

近年、トップジンM粉剤・水和剤（TM剤）を適期に散布しても、ダイズ紫斑病が多発するケースが多くみられ、TM剤耐性の紫斑病菌の発生が懸念された。そこで、TM剤に対する本病菌の薬剤感受性検定を行うとともに、代替薬剤の検討を行った。

[成果の概要・特徴]

1. TM水和剤に対する感受性検定では、ダイズ紫斑病菌 89 菌株のうち 87 菌株（98%）が耐性菌であった（図 1）。県内 14 の市町村 20 圃場のうち 19 圃場で耐性菌が確認され、ほとんどの圃場が耐性菌株率 100%であった。
2. TM水和剤の耐性菌発生圃場から採集した汚染種子を用いて、開花後 15 日、24 日の 2 回散布で薬剤の防除効果を検討した結果、ゲッター水和剤、ベルコート水和剤、スミチオンベルコート粉剤 DL の効果は高かったが、TM水和剤の効果は劣った（表 1）。

以上の結果から、県内にはTM剤耐性のダイズ紫斑病菌が広く分布しており、TM剤の代替薬剤としては、ゲッター水和剤、ベルコート水和剤、スミチオンベルコート粉剤 DL が有効である。

[成果の活用面・留意点]

1. ベルコート剤は予防剤なので、従来のTM剤の散布時期（1 回目：開花 10～15 日後、2 回目：開花 17～25 日後）より 1 週間程度早く散布する。

[具体的データ]

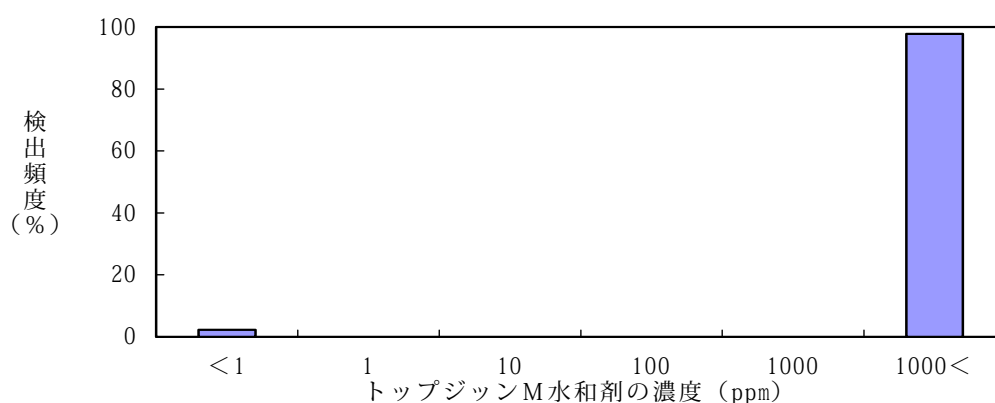


図1 デイズ紫斑病菌のトップジンM水和剤に対する感受性検定 (N=89)

表1 デイズ紫斑病に対する薬剤の防除効果

供試薬剤	処理量	処理時期及び 散布回数	調査粒 数 (数)	紫斑粒 数 (数)	不明粒 数 (数) **	紫斑粒 率 (%)	防除 価	薬害
ゲッター水和剤	1000 倍液 3000 /10a/回	9/4、9/13 2 回散布	1113	2.7	2.7	0.2	94	—
		9/13、9/23 2 回散布	1153	1.0	7.0	0.08	98	—
スミオンヘルコート粉剤 DL	3 kg/10a/回	9/4、9/13 2 回散布	1105	7.0	4.7	0.6	83	—
ベルコート水和剤	1000 倍液 3000 /10a/回	9/4、9/13 2 回散布	1130	8.0	3.3	0.7	81	—
トップジンM水和剤	1000 倍液 3000 /10a/回	9/4、9/13 2 回散布	1075	20.0	3.5	1.9	50	—
無処理			1108	38.0	6.7	3.7	—	—

注) 9 / 4 : 開花 15 日後 (莢長 3.5 cm)、9 / 13 : 開花 24 日後 (莢長 4.7 cm)、
9 / 23 : 開花 34 日後 (莢長 4.7 cm、莢の厚み 0.7 cm)

区制は各区 3 反復、ただしトップジンM区は 2 反復。

* 虫害、腐敗などにより紫斑の有無が確認できないもの。

[その他]

試験研究課題・事業名：現地緊急対策試験

予算区分：県単

研究期間：平成 13 年度

関連情報等：なし